歴史

History

多い年で42回のガイドで1,000名以上のお客さんが見学に訪れています。

私が石炭や炭鉱の話をしているときは皆さん静かなのですが、立坑建屋や旧自走枠工場内に入ると表情は一変します。会話をしながら案内していますが「実際に働いていたことのある人の話は生々しい」、何度も足を運んでくださる方からは「来るたびに立坑の表情が違う」との感想をいただきます。

石炭産業が戦後日本の経済振興を果たした役割は計り知れません。その一端を担い、先人たちが残してくれた歴史文化を、炭鉱遺産を通じて感じていただけたらと思います。

赤平コミュニティガイドクラブ TANtan　三上 秀雄さん

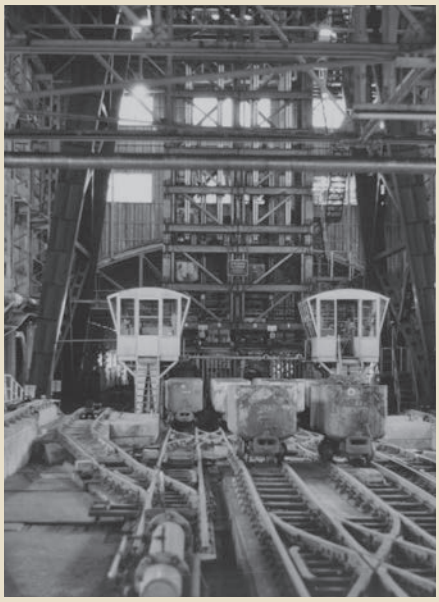
赤平は石炭とともに歩み、国のエネルギーを支える誇りを持って発展を遂げてきました。人口は最大で約6万人を数え、炭鉱を中心としたコミュニティがつくられました。仕事、日常生活、娯楽、安全を祈るまつり…。そこに暮らす人たちが家族のようにつながりあい、まちは活気にあふれていました。

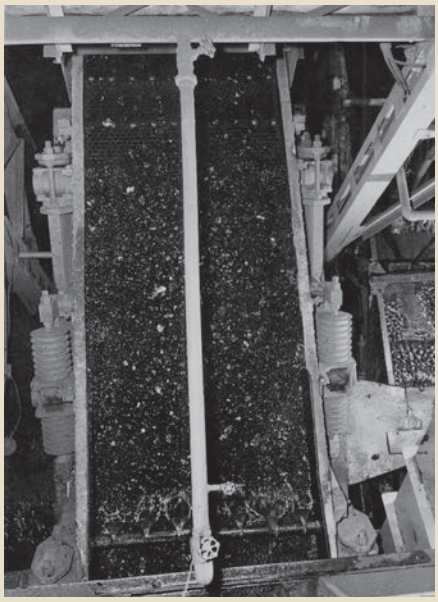
平成6年、住友赤平炭砿の閉山をもって坑内炭鉱の歴史に幕が下りました。閉山後二十余年、この間赤平はポスト石炭の模索を続け、赤平の自治がおびやかされる危機を乗り越えました。

まちの灯を消すな――先人たちが呼びかける声に、今ここに暮らす人たちがこたえ、現在の赤平があるのです。

赤平の炭鉱と歴史

－350水平坑底昇降場の入坑


立坑内自動かわせ装置（ヤード）


選炭機

斜坑人車で入坑

貨車による石炭運搬（住友選炭機）

－550水平実車線

住吉獅子舞

昭和40年代　大町の風景

昭和40年　住宅街と遠方は豊里炭鉱

昭和30年代　豊里劇場

昭和42年　茂尻炭礦立坑

昭和40年　北炭赤間選炭機全景

選炭機と低い頃のズリ山（赤間）

昭和37年　茂尻駅